



花を囲んで出会いとふれあい

花壇を支える人たち

昨年(2003年)の11月3日文化の日は、あいにく小雨模様でしたが、花と緑のボランティアグループ「花かご会」とアースデーに取り組む全通我孫子支部の方々の共同作業で我孫子駅前南口ロータリーの花壇に色とりどりのパンジーが植えられて明るくなりました。

この日に用意された花苗代の大部分は「地域の人たちとの共感」を大切にしている全通の皆さんのカンパによるものとお聞きしました。後日、花かご会の皆さんのお話をうかがい、これまで(きれいになった)ぐらいに見ていた花壇が「町の顔」「市の玄関」として「まちづくり」をされている多くの人たちの善意の輪を支えられていることと、そのご苦勞を知ることができました。



全通の皆さんと一緒に(12月3日)

「花が好きだから」
＝ボランティアで育てた花を花壇に＝
花かご会は、12年に社協が開いた「花と緑のボランティア講座」の受講生9名が集まり平成14年に発足しました。代表の佐藤さん、山田さんを中心に、花を通して明るい町や、人のつながりを育てたいと

花が好きだから

＝ボランティアで育てた花を花壇に＝

「花が好きだから」
＝ボランティアで育てた花を花壇に＝
花かご会は、12年に社協が開いた「花と緑のボランティア講座」の受講生9名が集まり平成14年に発足しました。代表の佐藤さん、山田さんを中心に、花を通して明るい町や、人のつながりを育てたいと

いう花好きな主婦たちのボランティアグループです。グループは、我孫子駅前南口ロータリーの花壇に季節毎の花を植え、植栽後の手入れ、除草や水やりなどの維持管理に取り組んでいます。そして、ここに植える花々は、障害者福祉作業所「みずき」で育てた花苗を多く植栽しているそうです。

「みずき」は、障害者の作業訓練や生活指導を通して自立と就労を支援する施設です。花かご会では障害者と一緒に花苗を育てるボランティア作業をして、その花苗を少し安く購入されていると、うかがいその広がりのある会の活動に感動しました。

素敵なお顔の中で

花かご会の皆さんには、サポートセンターのテーブルを囲んでお話をうかがいました。不慣れた質問にも丁寧に、笑顔でお話して下さいました。

花壇造りには、花苗や土、肥料、道具の購入など費用がかかります。現在は市から年間10万円の補助と全通我孫子支部の皆さんの寄付などによって活動しています。

代表の佐藤さんは、「さらに、花と緑の町を目指すには、資金と人手を充実しなければなりませんので、皆さんと考えて行きたいと思っています。」と話されていました。

12月3日には、今年最後の作業をされるという山田さんのお話「寒い日、暑い日は作業がたいへんですね」と申し上げたら、皆さんから、「花が好きですから！」



佐藤さん(左)と山田さん

と笑顔で応えられて脱帽の思いでした。

お話をうかがって花苗や土の購入代の費用は、行政、商店会などが積極的にバックアップして、町の美化、緑化を進めて欲しいと思いました。そして、花かご会の底力の源になっている「主婦パワー」の素晴らしさを感じた訪問でした。

下段にメンバーの皆さんからうかがった「一言」を紹介します。(レポーター K)

メンバーのさわやかな心意気

- ♥ 駅前ロータリーが造られた当初に、雑草が茂り荒れているのを見て「市長への手紙」で花壇手入れを提案したことがあり「言い出しっぺ」としての責任も感じて続けています。
- ♥ 花作りは楽しい、花が好きだから。
- ♥ 自分たちの町がきれいになると充実感を感じます。
- ♥ 私も年をとれば周囲の人に支えられて生活することが多くなるでしょう、ならば今自分に出来ることで皆さんに喜んでもらえたら嬉しいと思います。
- ♥ 私たちが駅前ロータリーをかけた理由は駅は「町の顔・人生の出発点」という想いからです。それだけに「駅前には皆さんに見られている所」への責任も感じています。
- ♥ 「花かご会」の思いは、「いつも花がある！」です。専門の方から見れば、技術的に強いところもあるでしょうが、これからも研修を積んで我孫子の町に花のある場所が増えるように、仲間を大きくしていきたいと会で話しています。
- ♥ 通りかぎりに足をとめてスケッチをしていく人がいたり、花苗植えの時には市役所の方が人が一緒に作業をしてくれたり、近くのドーナツ屋さんがお茶とお菓子を差し入れてくださるなど、大好きな花を通していろいろな人とのコミュニケーションが生まれますので、楽しくボランティアをさせてもらっています。